

# 鵜の池マラソン大会

## 新緑の湖畔で500人が健脚を競う

今年是有森さんと湖畔をいっしょに走る

7月27日、第26回中国山地日野・鵜の池マラソン大会が鵜の池湖畔で開かれました。大会には、県内はもとより群馬や京都、福岡などから約500人のランナーが参加しました。

今年は、招待選手にオリンピックメダリスト(1992年バルセロナオリンピックピックメダルなど)の有森裕子さんを迎え、新緑が美しい湖畔で心地よい汗を流しました。

選手は、年代・性別の17クラスに分かれ、2・3キロ、4・6キロ、6・9キロコースで健脚を競い合いました。町内の入賞者を紹介

- 小学生女子(2・3キロ) 3位 西村美砂さん(野田)
- 6位 生田万結さん(下黒坂)
- 50歳代女子(2・3キロ) 4位 高橋明美さん(板井原)
- 小学生男子(2・3キロ) 3位 三島秀典さん(黒坂)
- 4位 若杉晃希さん(根雨)

続けることの大切さ  
自分を信じること

鵜の池マラソン大会の前日



オリンピックメダリスト  
有森裕子さん

の7月26日、Do・スポーツ(森田勝彦会長)が、有森裕子さんの講演会「よるこびを力に」を町文化センターで開き、町内外から約200人が会場に詰めかけました。有森さんは「陸上競技との出会いを通して、続けること大切さを学びました。夢をかなえるという強い気持ちを持ち、自分を信じるのが大切です」と話しました。講演を聞いた参加者は、「とてもいい話を聞き、元気が出ました。これからも自分自身に挑戦していきたいです」と話していました。Do・スポーツは、町のスポーツ振興を目指し、町内で活躍するスポーツ愛好者約40人で平成8年に結成。積極的に各競技の有名選手を招き、講演や実技指導を企画し、スポーツの普及・強化を図っています。



親子で仲良くいっしょにゴール



招待選手の有森裕子さんも子どもたちといっしょに参加



スタート前は緊張



ゴール前の声援が力を与える



選手に大好評の味噌汁サー